

環境影響評価集計表 環境影響に関する研究一覧

(対象年度:2024年度 調査実施年度:2025年度)

部局	No.	著書名、論文名、発表演題等	担当者	研究の概要
経法学部	1	論文「条例からみた都市自治体による生物多様性政策」都市とガバナンス42号29-35頁	箕輪 さくら	都市自治体における生物多様性保全政策を条例制定の状況から分析した。
	2	論文「制定から25年を迎えた動物愛護管理法：現状と課題」法学教室527号34-39頁	箕輪 さくら	動物愛護管理法に関する解説と現状の課題を検討した。
全学教育センター	1	「山の沈香・川の沈香 マレーシア、サラワク州の採集現場検証ー」日本熱帯生態学会第34回年次大会, 2024年06月29日	金沢 謙太郎	当初、「山の・・・」「川の・・・」というプナン人の呼び名から、両種の生育に適した環境は異なっており、ベカリアーナ種はより土壌水分量が高い平地に、ミクロカルプ種は土壌水分量が少ない斜面～尾根に生育していると予想した。しかし、これまでの調査の範囲では「川の沈香」の平均標高は613メートル、「山の沈香」の平均標高は607メートルだった。
	2	「ボルネオ島の熱帯林と村内の小規模農地における地上性哺乳類・鳥類の出現状況」日本熱帯生態学会第34回年次大会, 2024年06月29日	菊池 隼人 泉山 茂之 金沢 謙太郎	小規模農地は野生動物の出現に一定程程の影響を与えているが、アブラヤシ・プランテーションのような大規模農地が生態系や社会に及ぼす影響とは異なり、野生動物と人間との衝突や被害は生じていない。
医学部	1	長野県における地下水の飲用に伴う放射性ラドンによる被ばく量の実態と災害時水資源としての最適な地下水利用法の提案(2024年 信州大学グリーン社会協創機構調査研究プロジェクト支援事業サステナビリティ推進プログラム)	榊原 厚一 廣田 昌大 宮原 裕一 中屋 眞司	長野県内の地下水・湧水のラドン濃度と被ばく量を調査し、災害時の飲用リスクを評価。簡易な低減策を提案し、地域連携を目指す。
	2	Hasegawa K, Inaba Y, Saito S, Shibazaki T, Nakayama F S, Kamijima M, Tsukahara T, Nomiya T, the Japan Environment and Children’s Study Group. Associations between maternal per- and polyfluoroalkyl substances exposure and lipid levels in maternal and cord blood: The Japan Environment and Children’s Study. Environ Res 2024 Oct. (in press) doi: 10.1016/j.envres.2024.120217	長谷川 航平 他	エコチル調査のデータにより検討した結果、母親の血中PFAS濃度と母体血・さい帯血の脂質との間に関連が見られた。
	3	Hasegawa K, Toubou H, Mizuki M, Tsukahara T, Nomiya T. Association between relatively low blood lead levels and urinary δ-aminolevulinic acid concentrations among male workers at a Japanese battery factor. J Occup Health 2024 Sep;66(1):uia056. doi: 10.1093/joccuh/uiae056.	長谷川 航平 他	工場労働者において、血中鉛濃度と尿中 δ-アミノレブリン酸濃度との間に関連を認めた。
	4	Hasegawa K, Motoki N, Inaba Y, Toubou H, Shibazaki T, Nakayama F S, Kamijima M, Tsukahara T, Nomiya T, the Japan Environment and Children’s Study Group. Maternal Exposure to Per- and Polyfluoroalkyl Substances and Offspring Chromosomal Abnormalities: The Japan Environment and Children’s Study. Environ Health Perspect. 2024 Sep;132(9):097004. doi: 10.1289/EHP13617	長谷川 航平 他	エコチル調査のデータにより検討した結果、母親の血中PFAS濃度と子どもの染色体異常との間に関連が見られた。

環境影響評価集計表 環境影響に関する研究一覧

(対象年度:2024年度 調査実施年度:2025年度)

部局	No.	著書名、論文名、発表演題等	担当者	研究の概要
医学部	5	Hasegawa K, Inaba Y, Toubou H, Shibazaki T, Iwai-Shimada M, Yamazaki S, Kamijima M, Tsukahara T, Nomiya T; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Prenatal mercury exposure and the secondary sex ratio: The Japan Environment and Children's Study. Reprod Toxicol. 2024 Aug;130:108685. Online ahead of print. doi: 10.1016/j.reprotox.2024.108685.	長谷川 航平 他	エコチル調査のデータにより検討した結果、さい帯血中水銀濃度と子どもの性別との間に関連が見られた。
	6	蓑島宗夫, 長谷川航平, 塚原照臣, 野見山哲生. ダーラム型捕集器を設置しにくい施設で同法に代わりクリップで固定する空中花粉捕集(クリップ法)に関する検討. 信州公衆衛生雑誌 2024年5月;18(2);134-138.	蓑島 宗夫 他	ダーラム法代替として、PET樹脂板を用いたクリップ法は高相関・高捕集効率を示し、保育園等の設置困難な施設でも有用と考えられた。